

PDCA システムを導入した先進的授業改善

田中 康正 ・ 鎌倉女子大学

高垣 マユミ ・ 鎌倉女子大学

住所：神奈川県鎌倉市大船 6-1-3

TEL：0467-44-2111(代)

E-mail：ytanaka@kamakura-u.ac.jp

1. はじめに

鎌倉女子大学（以下、本学）は家政学部および児童学部よりなる小規模大学である。本学は平成 15 年度に教授システム開発室を設置してより、本学における授業の質を高めることを目的とし、学生による授業評価の結果を授業改善に活かす、組織的な取り組みとしての授業改善プロジェクトを、実施している。その授業評価は、授業のすべてが終了した後に行う「総括的評価」ではなく、得られた評価結果に基づく授業改善を、その授業自体に反映する「形成的評価」である。本稿では、本学における新しい授業改善への取り組みについて報告する。

2. 授業改善の方法

2.1 理論的枠組み

学生の授業に対する評価のアンケートを実施することは、授業を改善するのに有効な方法である。しかし、すべての授業終了後にアンケートによる授業評価を行い、次年度に教授法を改善するのでは、授業改善の恩恵を受けるのは、現在授業を受けている学生ではなく、次年度の学生となる。そこで、本学の授業改善プロジェクトの理論的枠組みとしたのは、PDCA システムである。Plan（計画）—Do（実施）—Check（評価）—Action（教授法改善）というステップを、サイクリックに授業ごと（ないしは授業のまとまり）ごとに、繰り返すものである。評価のステップにおける入力情報としての、学生からの授業評価結果は、授業を再設計する有益な情報となる。毎回の授業の評価を次回の授業設計に活かすことで、授業者は毎回の学生の学習の進捗、興味、関心等を把握・分析し、その結果やニーズに基づいて、当該授業に対する即時的、かつ弾力的な授業改善を行うことが可能となる。

2.2 授業評価プロジェクト全体情報処理システムの構築

教授システム開発室は、情報教育センターと連携して、システムの開発・構築にあたった。図 1 に示すように、PC により印刷された、授業評価アンケート用紙を授業者が授業終了後、学生に渡し、学生は授業評価アンケート用紙に授業評価を記入後、記入済の授業評価アンケート用紙を提出箱に提出する。情報教育センターが記入済の授業評価アンケート用紙を回収し、次回の授業までに届けられるように、PC により授業

の総合的評価と観点別評価の統計処理を迅速に行い、統計処理結果を授業者に提示する。授業者は、統計的に処理された授業者に対する「授業の総合評価と観点別評価の数量的分析」のマクロレベルの分析、及び学生自身に対する「授業の感想、自己評価、質問等の自由記述の言語データによる質的分析」のミクロレベルの分析の両側面に基づき、次回の授業までに、教授改善シートに、自己評価、及び授業の改善点を記述し、教授システム開発室に提出する。教授システム開発室の主任研究員は、全ての教授改善シートに目を通し、授業者に適宜カウンセリングを行う、というシステムを構築した。

2.3 普通紙による OMR アンケート処理 PC システム

授業評価アンケートを処理する PC システムとしては、アンケートフォーマットが容易に変更可能なこと、アンケート用紙の印刷が容易なこと、アンケート用紙の読み取りおよび統計処理が迅速なことが重要であると考え、普通紙による OMR アンケート処理が可能な PC システム（表 1 参照）を導入した。この PC システムでは、Microsoft Office Word 2003 によるアンケートフォーマットの作成および普通紙への静電プリンタ使用の印刷、Remark Office による OMR スキャナー使用の OMR アンケート用紙の読み取り、SPSS フォーマットでのデータの保存と、簡易統計データの計算・印刷を行うことが出来る。さらに、SPSS による高度な統計解析も可能となった。

表 1. 普通紙 OMR アンケート処理 PC システムの構成

ハードウェア	PC : Fujitsu FMV-E601 CPU: Celeron2.0GHz, HDD : 40GB, MEM:512MB
	OMR スキャナー : Canon DR-5020
	Printer : Fujitsu XL-5350
ソフトウェア	OS : Microsoft Windows XP
	文書作成ソフト : Microsoft Office Word 2003
	OMR ソフト : Remark Office (ハンモック社) 統計処理ソフト : AMOS 4.0.2J for Win SPSS 11.5J for Windows BASE Advanced Models 11.5J for Windows

2.4 推進体制

平成15年度に、教務部内に教授システム開発室が設置された。教授システム開発室では、授業改善プロジェクトを推進するために、全学的な教育組織と連携しつつ、授業改善システムの開発、実践授業の計画・実施、授業分析まで、広範囲にわたる活動を行っている。その内、授業評価アンケートの統計処理を中心とする全体情報処理システムの設計・構築および運用については、本学の情報処理基盤を担当する情報教育センターと連携して行っている。

3. 成果および期待される効果

平成15年度より、毎年秋セメスタに15~20の講義を対象に、授業改善プロジェクトを実施している。平成18年度には、保育士、幼稚園・小・中・高等学校教諭、管理栄養士、養護教諭等の養成における、講義、実習・実験、演習等の多様な授業内容・形態において、授業改善プロジェクトを実施した。対象となった講義は、家政学部・家政保健学科 2 (養護実習指導、スポーツ実技)、管理栄養学科 2 (調理学実習②、生化学実験②)、児童学部・児童学科 4 (保育実践指導、倫理学、教育課程総論、児童文学研究)、子ども心理学科 1 (英語②)、

短期大学部・初等教育学科 3 (リトミック、音楽表現①、理科) の計12科目である。これまでに、平成17年度は計13科目、平成16年度は計15科目、平成15年度は計16科目を対象に、授業改善を実施した。

上記 2.2 に述べた授業評価アンケートに対するマクロレベルおよびミクロレベルの分析により、授業者及び学生の双方の観点から授業の評価が可能になり、また授業期間中に複数回アンケートを実施することで、授業回数による授業評価の変化について、数量的かつ質的観点から検討が出来るようになる。得られた結果は授業改善のための有益な資料となり、授業者の資質向上と共に、学生の反省的思考や学習意欲の向上に大いに役立っている。

4. 今後の課題

教授システム開発室と情報教育センターが連携して授業改善プロジェクトを推進しており、授業改善の効果はあがってきているが、今後ともプロジェクトの推進方法、全体情報処理システムの検討を進め、授業改善プロジェクトを着実に推進していくことが求められている。

以上。

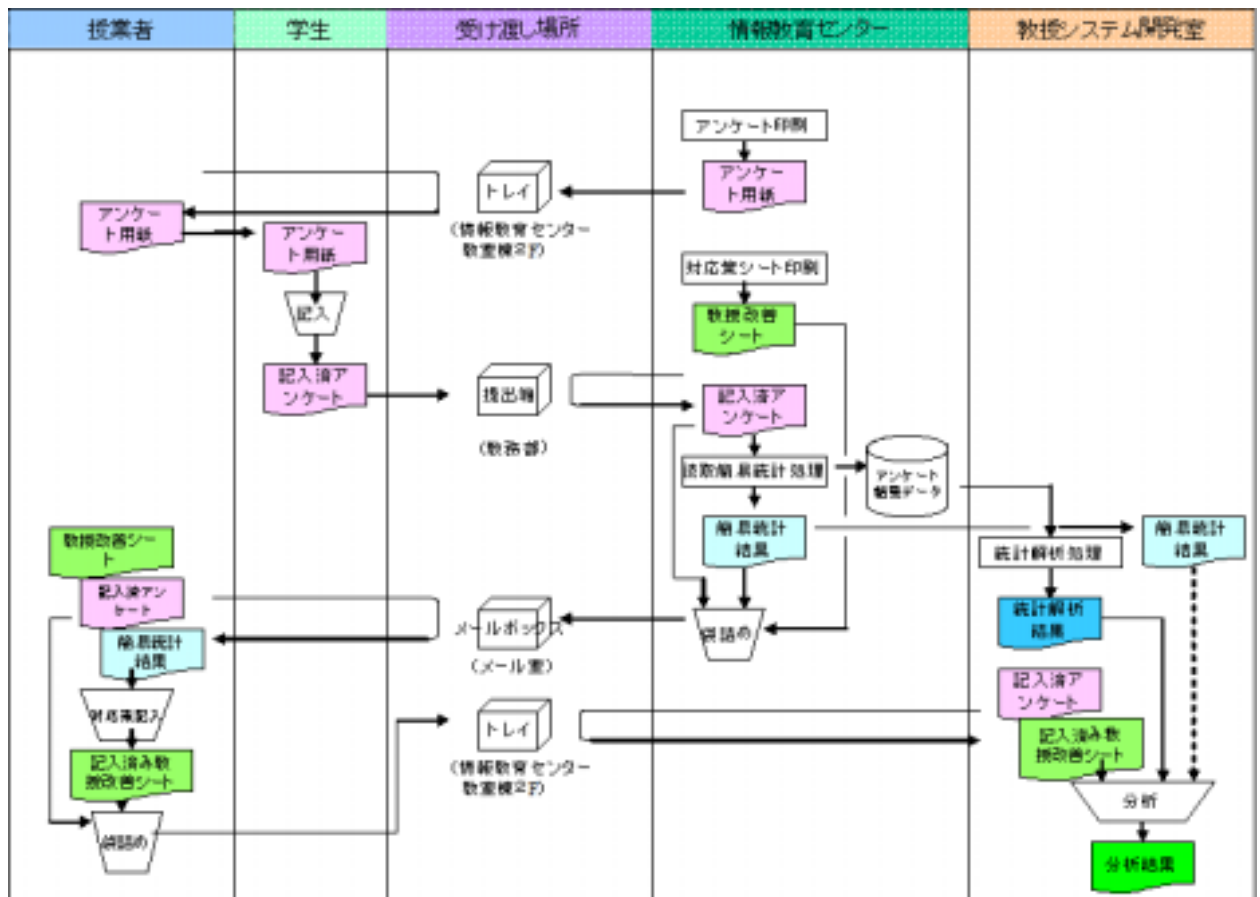


図1. 授業評価プロジェクト全体情報処理システム